

# ほつかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道NIE推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

北海道NIE推進協議会  
と北海道十勝新聞教育研究会は2月6日、第14回帯広・十勝セミナーを十勝毎日新聞社で開いた。『まわしよみ新聞』を案した大阪の「まちづくりプロジェクトデューサー」、陸奥賢さんを招いて実習した。

北海道NIE推進協議会による実践指定校が25日までに内定した。新聞協会による実践指定校が進められている。それぞれ募集中で、順次認定

## 指定校まず13校



校が11校、北海道推進協の独自指定校は2校で、いずれも前年度からの継続校。16年度は新聞協会による指定校32校、北海道推進協による独自指定校を若干、それぞれ募集中で、順次認定

された大阪の「まちづくりプロジェクトデューサー」、陸奥賢さんを招いて実習した。『まわしよみ新聞』を案した大阪の「まちづくりプロジェクトデューサー」、陸奥賢さんを招いて実習した。

北海道NIE推進協議会は2月6日、第14回帯広・十勝セミナーを開いた。『まわしよみ新聞』を案した大阪の「まちづくりプロジェクトデューサー」、陸奥賢さんを招いて実習した。

北海道NIE推進協議会は2月6日、第14回帯広・十勝セミナーを開いた。『まわしよみ新聞』を案した大阪の「まちづくりプロジェクトデューサー」、陸奥賢さんを招いて実習した。

北海道NIE推進協議会は2月6日、第14回帯広・十勝セミナーを開いた。『まわしよみ新聞』を案した大阪の「まちづくりプロジェクトデューサー」、陸奥賢さんを招いて実習した。

## 帯広セミナー「NIEのきつかけ作り」

# 使える！ まわしよみ新聞

教科・領域別では社会科系6、国語5、道徳、学級活動各1だつた。小学校の国語は書く力の育成に重点が置かれた。中学校では複数の記事を比較して事実と意見を読み分ける授業が多かつた。

北海道NIE推進協議会は2015年度NIEセミナーが、2月6日の帯広で終了した。前年度より2ヵ所多い15地区で16回開いた。公開授業は過去最多の13会場に及び、初めて高校でも行われた。知識を覚えることより、知識を活用して考えさせる内容が目立つた。

北海道NIE推進協議会は2015年度NIEセミナーが、2月6日の帯広で終了した。前年度より2ヵ所多い15地区で16回開いた。公開授業は過去最多の13会場に及び、初めて高校でも行われた。知識を覚えることより、知識を活用して考えさせる内容が目立つた。

### 2015年度 地区セミナーの公開授業（敬称略）

会場校・開催日	授業者	学年・教科
釧路・新陽小（5/26）	北岡 知樹	6年学級活動
北見・緑小（6/26）	丸山 裕之	5年社会
稚内高（7/16）	増子 優二	2年国語
喜茂別・喜茂別中（8/21）	山田 耕平	3年公民
北広島・西部小（9/11）	大根田 博	6年国語
函館・赤川中（9/15）	金子 賢	3年国語
赤平・茂尻小（9/29）	長尾 孝明	6年国語
士別・士別中（10/16）	ネチャコフ愛	1年国語
静内高（10/30）	前川 保夫	3年時事問題研究
留萌高（11/13）	山科 晶裕	3年公民
江差・江差中（11/27）	荒木 聰	2年社会
伊達高（12/7）	大地 豪	1年現代社会
旭川・愛宕東小（12/10）	佐治麻里子	6年道徳

北海道新聞ホームページ「NIE」（www.doshin-nie.com/）でバックナンバーから閲覧できます

## 公開授業、アクティブラーニングに

### 出産と育児から 男女平等を考えた

第11回NIE伊達・胆振セミナーは12月7日、伊達市の伊達高で開かれた。約30人が集まつた。

伊達高の大地豪教諭が1年生の現代社会で男女平等をテーマに授業を公開した。まず、安倍晋三首相の掲げる「新3本の矢」「1億総活躍社会」などの既習事項を確認した。女性社員を積極的に登用したり、女性社員の出産や子育てを機に、仕事を継続しやすい制度を整備しようとした意識を変えたりした経営者の記事を読み、男女の役割分担を考えた。

実践発表は、市立伊達小の矢島勲教諭、市立光陵中の白山恭之教諭が行い、社会への関心を持たせるための活用例を報告した。



### 野球がつないだ 国際交流に関心

第15回NIE旭川セミナーは12月10日、旭川市立愛宕東小で開かれた。約50人が参加した。愛宕東小の佐治麻里子教諭が、6年生の道徳「国際理解・親善と人類愛【国境を越えて】野球がつなぐ国際理解」の授業を公開した。西アフリカ出身の野球

選手が、富良野の市民団体の支援を受け、四国独立リーグでプロデビューを果たすという記事を取り上げた。佐治教諭自身がこの市民団体などを取材し、授業案をまとめた。子どもたちは国境を越えた交流への関心を高め、互いを思いやる気持ちを学んだ。

実践発表は、美瑛町立明徳中の佐藤雅輝教諭、富良野高の桃野泰子教諭が行つた。西アフリカ出身の野球



### 「観光客増やす」 アイデアが続々

第7回NIE江差・檜山セミナーは11月27日、檜山管内江差町の江差中で開かれた。約20人が参加した。

江差中の荒木聰教諭が2年社会科の授業「豊かな自然を生かした観光【外国人観光客の増加と北海道の魅力】」を公開した。生徒たちは北海道の観光をめぐる記事から、それぞれの取り組みの狙いを考えた。観光客を増やす方法として、「江

## NIE実践奮闘記

初任時代の授業の話です。普段はあまり積極的に授業に参加していなかった生徒が、資料として配った記事を食い入るように読んでいました。普段との差

今、自分を取り巻いているこの世の中、そ

ぶ内容への必要感が生まれるのです。

今年度、勤務校がNIE実践指定校に選ばれ、

### 「社会を知り、考える力」を

徒の「読む力」が高まつたのに対して表れたと感じています。

それだけではなく、生徒からは「読んだ新聞記事について、自分の考えを発表する問題に取り組みたい」という声があがりました。新聞を通して、社会を知り、自分なりの考え方を持つ



網走市立第二中学校教諭 武井 翔

初任時代の授業の話です。普段はあまり積極的に授業に参加していなかった生徒が、資料として配った記事を食い入るように読んでいました。普段との差に、私は驚きました。それと同時に新聞記事の教材としての力を興味が湧きました。なぜ、生徒は新聞記事にここまで興味を持つたのかが不思議でした。

今、その理由は、「どんな生徒でも社会への興味を持つている」からだと思ったのですが、新聞を読むことで生徒であるうと、

生徒が新聞に触れる機会が増えました。新聞を使つた実践を重ねることにしてこれから自分がしていく力。このような力を育成していくことは、これ

ことによって、伝えたいという意欲が湧いてきたのです。そのことが関係しているのか、様々なテストでの無回答率が減つてきています。そのため、新聞を使うことで、前向きに自分の考えを伝えようとする意欲が、新聞を離れて目の前の課題や問題に取り組もうとする姿勢

差追分」を世界各地で披露する「江差が一番盛り上がる祭り(姥神大神宮渡御祭)で、言語の壁を超えて楽しさを共有する」などの意見を出し合つた。

上ノ国小の塚田聰美教諭がいじめ問題の記事を使つた道徳の授業、檜山北高の西原聰教諭が国語科の新聞活用について実践発表した。

# 新聞活用 多角的に論議

教師らでつくる北海道NIE研究会(会長・上村尚生札幌市立星置東小学校校長)の冬季研修会が1月8日、北海道新聞社本社で開催され、参加者は講演や実践発表を通して新聞活用の可能性などについて認識を深めた。



## NIE研究会の冬季研修会

### 特別支援学級 実践に注目

15年度に新規に実践指定校となつた札幌市立星置東小・星賀康弘教諭と指定校2年目の同陵北中・永野亜也子教諭が実践発表した。

星賀教諭は「18歳選挙権」をテーマにした実践などを紹介。子供たちは教師が示した新聞記事から選挙権年齢の引き下げについて知識を深め、さらにデジタル新聞でさまざまな記事を自ら探し、国民や政府の立場などを多角的な見方に触れた。

「新聞を通して社会を知る楽しさを感じることができた」と考える一方で、タイマーな話題を速やかに教材化する難しさを挙げた。

永野教諭は特別支援学級の20人に向けた国語の取り扱いを紹介。新聞を主権者教育にどう生かすか、模索する一方、立命館慶祥高側も主権者として必要な知識、視点を育てたいと考え、今回の出前講座につながった。

喜茂別町立喜茂別中の山田耕平教諭は昨年のNIE全国大会(秋田市)の報酬を紹介。新聞を経験や視点が異なることを利用して複数の新聞を読み比べ、考える大切さなどを説いた。

### 図書館の役割 理解深めよう



日本NIE学会第12回奈良大会「NIEと21世紀型スキル」――NIEはどのように深い学びを開くのか?――

また、最高裁が昨年11月、2014年の衆院選について一票の格差が2倍を超える「違憲状態だた」と判決を下したことなどを紹介。選挙制度のあり方に問題提起したり、日本国憲法の誕生経緯や旧憲法との違いなどを紹介した。

多くの教職員や研究者ら約200人が七つの研究分科会などに参加し、各地の実験の成果やNIEの現状について論議を深めた。

高3に主権者教育 道新が  
出前講座



新聞活用を通じて主権者としてのリテラシーを高めてもらおうと、北海道新聞の田村晋一郎NIE推進センター長が1月19、21の両日、立命館慶祥高校で3年生を対象に出前講座を行つた。写真II。誰かの言葉に流れされずに、多様な視点から政治や選挙に関する情報を読み解く大切さを訴え

教師の政治的中立性が焦点となる中、主権者教育は敬遠されがち。だが、同社

は新聞を主権者教育にどう生かすか、模索する一方、立命館慶祥高側も主権者として必要な知識、視点を育てたいと考え、今回の出前講座につながった。

講座では、安保法案反対デモに関する世論調査の数値を巡り、新聞社同士が論戦を交わした

実例を紹介。新聞社によって論調や視点が異なることを見出し、考える大切さなどを説いた。

また、最高裁が昨年11月、2014年の衆院選について一票の格差が2倍を超える「違憲状態だた」と判決を下したことなどを紹介。選挙制度のあり方に問題提起したり、日本国憲法の誕生経緯や旧憲法との違いなどを紹介した。

組みを発表した。習熟度別に5グループに分かれ、国語の苦手なグループでは教師が新聞記事を読み聞かせ、「いつ」「どこで」「何があつた」などをワークシートに書き込んでいる。得意なグループでは記事を自分で読んでワークシートを完成させ、記事の感想も書いている。これにより、特別支援学年の生徒にとって重要な社会に関心を持つ姿勢を育んでいる。

このほか、札幌光星中学高等学校・本多由佳教諭は昨年11月の北海道十勝新聞教育研究大会(会場・芽室西小)のもう一度を報告。道徳の資料と新聞記事を組み合わせ、さらに記事を書いた記者を招いた公開授業について「授業後に記事の組み合いで、議論があつた」と話した。

喜茂別町立喜茂別中の山田耕平教諭は昨年のNIE全国大会(秋田市)の報酬を紹介。新聞を経験や視点が異なることを利用して複数の新聞を読み比べ、考える大切さなどを説いた。

奈良県平群町立図書館の西村君江館長は、まちの図書館と学校司書の支援」を挙げた。熊本日日新聞社の越地真一郎NIE専門委員は「図書館とNIEは相性がいいが、その認識はいまひとつ」と指摘した。

このほか広島大学の教授

と大学院生8人は、13の地方紙と全国紙の「戦後70年の記事を参考にして平和について考え、社会に働きかける手立てを模索し、注目された。北海道新聞から室蘭空襲についての記事が参考にされた。

また道内からは札幌市立平岡中央中の三上久代教諭

が、共同研究として学校図書館とNIEとで新聞活用のアプローチに微妙な違いがあると発表。恵庭南高の久光原教諭は、自身が書いた新聞コラムを英訳し、関連の映像を交えた授業の成果を披露した。

札幌市立円山小学校で昨年12月、新聞について5年生に話をする機会があった。社会科の校外学習「くらしを支える情報」の中の一環で、学習は2日間のパッケージ。1日は朝日新聞大曲工場(北広島市)を見学し、もう1日は校内で記者から話を聞くという流れだ。

私はもともと社会部記者。今は紙面の方針や企画の打ち合わせに参加するところもあるものの、実際に取



## 子どもの言葉は「宝物」

朝日新聞北海道支社報道センター長 森田 良平

リレーエッセー  
多様紙彩々

材や原稿を書くことはまずない。むしろ人事や予算管理に悩まされることが多い。しかし、もう1日は校内で記者役回りだ。でも、今回は昔の打合せで、「新聞記者」とつた枠柄で、「新聞記者」だから話を聞くという流れだ。

私はもともと社会部記者。今は紙面の方針や企画の打ち合わせに参加するところもあるものの、実際に取

## うれしい瞬間

授業の後にはクイズコーナーも。朝日新聞で連載している「じつもんドラえもん」のポケットブックがプレゼントされた

## 編集後記

○…50代後半に入り「おせっかいおばさん度」がさらに上昇中だ。地下街などで小さい子が独りで泣いていると「迷子かな」と、声をかけてしまう。たいてい近くに親がいるが、たまに本当だったりする。

○…ツルツル路面の横断歩道をよろよろ渡る高齢者には、反対方向なのに手を貸してしまう。先日は空港行きの列車で70代の女性に声をかけ、キャリーバッグの置き場所を融通し合った。そこから話が弾み、周りの韓国の観光客も交えて楽しい時間を過ごせた。

○…NIEの出前授業や職業体験で、子供たちから「新聞記者に必要なものは」と聞かれる。異論もあるだろうが筆者は「好奇心と想像力」と話している。世の中にアンテナを張って情報を取り、想像力をフル稼働して弱者の窮状や社会の問題に寄り添う。「みんなも持っている力だよね」と呼びかけている。そこに「おせっかい」も加えてみたい。人と人をつなぐ働きをわかりやすく説明できる。迷惑度が高くなりがちな「おばさん度」だが、こういうのはいいと思いませんか。(多)

総合学習の時間にいろんな職業の父兄がそれぞれの仕事をついて話をす る場に呼ばれた。その際、できるだけわかりやすくと思つて丁寧に話したの だが、後で息子から「小学生に話していいようでも、あまり幼稚な内容にならないようにしよう、と思っていた。その反省にた ち今回は小学生といえども、あま

る悪かった」と言われた。その反省にたいへんうれしかった。その反省にた ち今回は小学生といえども、あま

り幼稚な内容にならないようにならう、と思っていた。学校で話す時に「新聞を取つてある人、手をあげてください」と冒頭に尋ねることが多かつた。しかし、昨今その結果に失望

することが増えてきた。今回は思い切つて割愛した。なぜなら、この質問が用意したパワーポイントを使つて、記者の仕事、新聞の打ち合わせに参加するところもあるものの、実際に取

った。もちろんいまは携帯やネットで送る。実は朝日新聞では昔、伝書鳩を飼つていた。大阪本社では1966年まで飼育されていた。社史によると全盛期は1935年から38年ごろだった

ようだ。遠隔地から社屋の「ほつかいどうNIE通信」では、NIEに関する情報が、いろいろな会員の手が上がつた。うれしい瞬間だつた。遠い場所で取材した結果はどういう方法で連絡するのか、といった質問があつた。もちろんいまは携帯やネットで送る。実は朝日新聞では昔、伝書鳩を飼つていた。大阪本社では1966年まで飼育されていた。社史によると全盛期は1935年から38年ごろだった

ことわざを伝わりました」。こんな激励もいただいた。「これからもたくさんの人のために新聞を作るお仕事がんばつてください」肝に銘じてさらに良い新

聞を届けたい。

NIE活動に関するイベントや勉強会の情報や、新聞活用の工夫など、何でも結構です。また、このNIE通信への要望や感想も大歓迎です。

北海道NIE推進協議会事務局(北海道新聞NIE推進センター内、☎011・210・5802、FAX011・210・5826、メールn i e @ h o k a i d o - n p . c o . j p )にお気軽にお寄せください。



**NIEの情報**  
何でもどうぞ